

アニマルウェルフェアに配慮した飼養システムの普及に向けて

採卵鶏及び豚の快適性と生産性を高める飼養管理技術の開発



採卵鶏ではバタリーケージやエンリッチドケージの適正な飼育密度、妊娠豚ではストールを用いても正常な行動様式を発現する技術を開発しました。

これらの技術は手引きとして公開し、生産現場におけるアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の更なる普及・定着が期待されます。

研究背景

近年、国内外において家畜のアニマルウェルフェアに対する関心が高まっており、特に飼養システムについて注目されています。



採卵鶏のバタリーケージ



妊娠豚のストール

研究代表機関 農研機構

プロジェクト名 鶏及び豚の快適性により配慮した飼養管理技術の開発

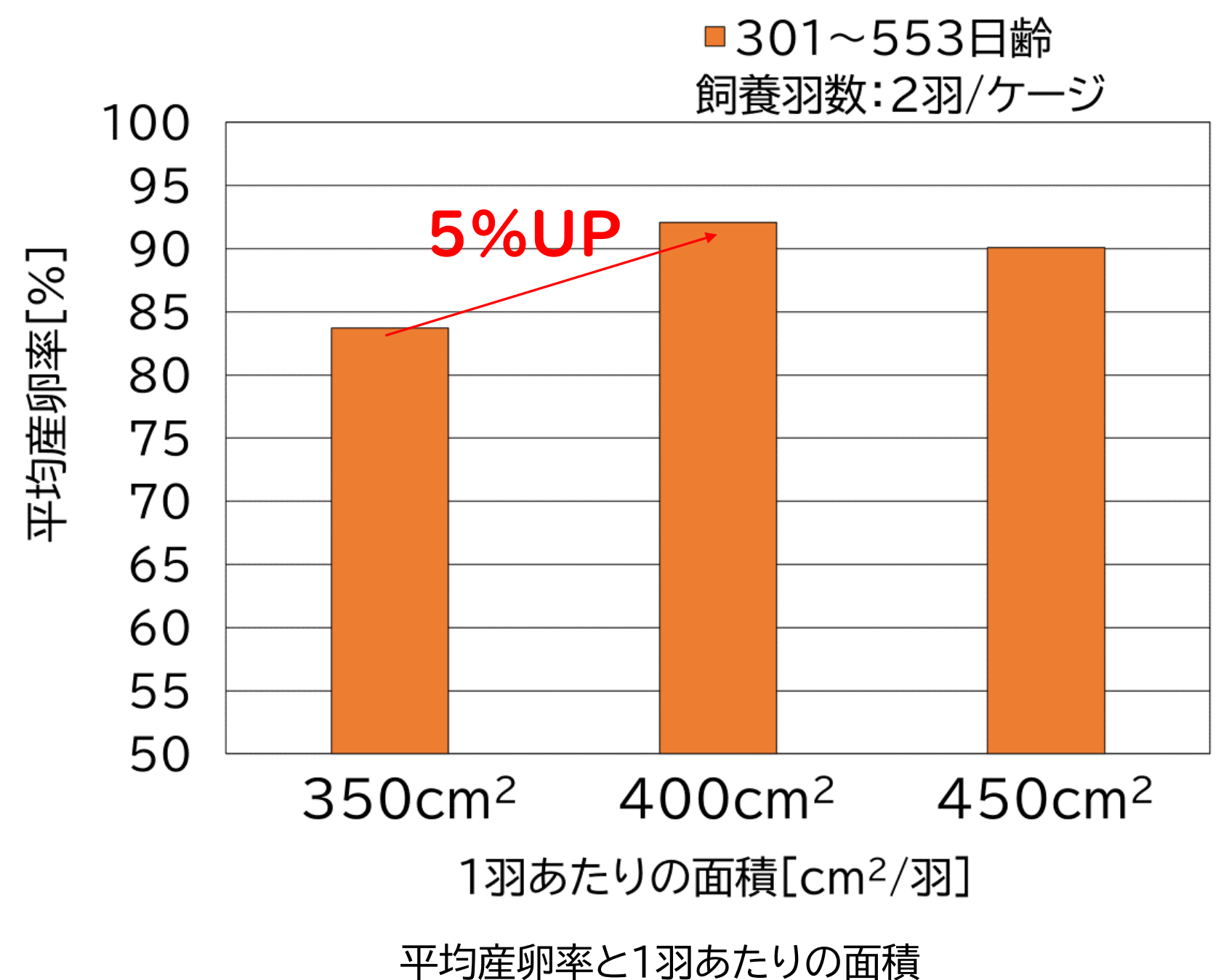
研究期間 令和4年度～令和6年度

共同研究機関 信州大、山梨畜酪センター、長野畜試、NEC通信システム、東海大、東京科学大 等

主な成果

1 バタリーケージの適正管理による生産性評価

➡ 既存の飼養システムの中で、バタリーケージの1羽あたりの面積を、**350 cm²から400 cm²に移行することにより約5%の産卵率増加を実現**



2 妊娠豚が正常行動を発現できる飼育技術を開発

➡ 従来型のストールと比較し、フリーアクセスストールにおいても**良好な繁殖成績を確認**

母豚個体管理システムの活用で62%の作業時間削減を実現



フリーアクセスストール



母豚個体管理システム

3 アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理導入手法を提示

➡ **生産者が利用しやすい手引きを作成・配布することで、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の更なる普及・定着を期待**

- ・施設ごとの長短所を整理
- ・既存の飼養システムの最適化
- ・施設改修技術の提示
- ・飼養施設の生産性
- ・消費者の購買行動



鶏・豚のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理の手引き：
<https://tuat.repo.nii.ac.jp/records/2000272>

